

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第86号

[2016年7月号]

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第86号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ/ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

<目次> [ページ]

今年もスタディツアー開催決定！

メソトマンスリー

国内から

編集後記

次号の予定



今年もスタディーツアー開催決定！

【7月27日(水)まで!!】

スタディーツアー募集期間延長のお知らせ

スタディーツアーに関しまして、たくさんのご応募、お問い合わせをいただきありがとうございます。

より多くの方にメータオ・クリニックやタイ-ミャンマー国境の様子を知っていただきたくスタディーツアーの募集期間を7月27日(水)まで延長することに決定いたしました。

夏休みの予定を検討中の方、医療や移民・難民に興味のある方、ぜひお気軽にお問い合わせください。

なお、今回お申込みいただく方には、30日(土)までにパスポートのカラーコピーをメールにてご提出いただきます。

期日を過ぎた場合、難民キャンプはご訪問いただけませんので、ご了承ください。

皆様のご応募を心よりお待ちしております。

<スタディーツアーの概要>

【日程】9月5日(月)～9月10日(土)

【場所】タイ王国北西部メソット

【活動内容】

-メータオ・クリニック訪問

-難民キャンプ訪問

-ビルマ/ミャンマー移民学校訪問

-国境観光

※未成年の方は難民キャンプの規定で訪問できないため、他の場所をご案内いたします。

【参加費用】8万円(往復航空券は含まれておりません)

【定員】8名

【申込締切】7月27日(水)

【お申込方法】

以下を明記の上、申込みする旨をメールで support@japanmaetao.org (担当:山城) へお送り下さい。

メールタイトル 「2016年スタディーツアー申込み」

(1) 氏名

(2) 住所(都道府県のみで結構です)

(3) 年齢

(4) 職業



(5) その他ご希望があれば記載してください。

お申込メールを確認後、こちらより正式な申込書類を添付したメールをお返しいたしますので、その書類に記入、押印のうえ、郵送にてお送りいただくこととなります。この書類が正式な申込書となります。

メソトマンスリー

【メソト＝神谷 友子】



azbil みつばち倶楽部様より マスクの寄付が届きました

7月に、azbil みつばち倶楽部のみなさまからご寄付頂きましたマスクの一部の2400枚がメータオ・クリニックに届きました。メータオ・クリニックが周辺地域や移民学校で配布するマスクが不足しているとのことで、こちらに使用させていただく予定です。スタッフ一同、日ごろからのご支援に感謝いたします。ありがとうございます。



最近のメソット

みなさまこんにちは。現地派遣員の神谷です。メソトは雨季に入り、毎日雨が降ったりやんだりしていますが、毎日40度まで気温が上がっていた4月と比べるとだいぶ過ごしやすくなりました。

6月5日の世界環境デーの日には、疾病予防・健康促進部門のスタッフが中心となって、移民学校(CDC校)の寄宿舎の生徒たちと、新しいクリニック内でゴミ拾いや、植樹を行いました。病棟内の裏側は、患者さんや付き添いの家族の方が捨てたと思われるゴミがあったり、ハエがたかっていたり。新しい出来たクリニックの衛生状態をきれいに保つために、取り組まなければいけない課題はたくさんありそうです。先日、植樹した辺りにかわいい花が咲いていました。今後、クリニックがどう変化していくか見守っていきたいと思います。





雨の中みんなでクリニックのゴミ拾い。



産科病棟の待合室前。



病棟裏の患者さんが使うゴミ箱も
しっかり分別できるかな？



クリニックの裏に保管していた苗木
をみんなで運んでいます。



図書室の前にも苗木を植えました

看護トレーニング

3月末から始まっていた、メータオ・クリニックスタッフへの看護トレーニングも残すところあとわずかとなりました。外部から来た看護トレーナーのサラさんも、だんだんとメータオ・クリニックのスタッフや看護トレーニングの生徒のスタッフたちと打ち解けてきて、最近では病棟内での実技指導を始めました。看護スタッフが観察・実施した項目を記録できるような記録用紙を新しく作って、それを使って患者さんの看護ケアをしたり、勤務交代の時に引継ぎをしたりできるように、生徒のみんなは病棟内で実習中です。



看護トレーニングの授業は、各分野専門のスタッフにも講師をお願いして講義をしてもらっています。歯科分野は歯科のマネージャーに、産科分野は産科スタッフの責任者にといった感じです。

先日は、私が担当を任された「患者さんの体をきれいに洗う演習」の授業がありました。床に寝た状態の患者さんの「全身をタオルで拭いて、着替えをする」「髪を洗う」、シャワー用の椅子に座った状態で「体を洗う」、「歯磨き」「陰部洗浄」「顔を拭く」「足浴」「手浴」。このすべてを6時間で、説明しながら実演して見せて、さらに生徒のみんなにも実技練習してもらおうという、とてもハードな時間割でしたが、みんな予想以上に楽しそうにできばきと演習していました。実際は、打ち合わせしたことがきちんと伝わってなくて、必要な物品がそろっていなかったり、患者役の生徒が足りなくて練習できない人がいたり、いろいろな問題がありました。洗い方の手順などクリニックにないので、授業で使うために最初から作ったりととても準備に時間がかかりました。私が学生の頃にも演習や講義の授業がありましたが、演習スケジュール案作成、必要物品リスト作成・準備、手順書作成、など実際にやってみて、先生の仕事がいかに大変かを実感しました。前例がないため、ゼロから手探りの状態で進めています。演習で勉強したことを、実際の患者さんへの清潔ケアに生かしてもらえるように、今後も病棟内でのフォローアップをしていく予定です。

また、クリニックの移転時はとてもバタバタしていたため、いろいろな物品の配置を考え直す作業も一緒に行っています。どこに何を置いたら作業しやすいかなど、現地スタッフに話を聞きながら、一つずつ改善できたらと思っています。

今回の看護演習では、必要な物品がクリニックにないために、生徒のみんなにお願いして各自歯ブラシや石鹸、布、桶を持ってきてもらったり、新しく長靴を買ったりしました。今年はクリニック全体の予算が厳しく、一部スタッフの給与が減らされるなど、必要な備品や消耗品をそろえる十分なお金がありません。引き続き、みなさまからのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



実演の様子。「体をきれいに拭いたら、も交換してね」



体拭きの演習。ここではバスタオルがないので、代わりに伝統的な布「ロンジー」を使っています。



洗髪。専用のシャワーボトルがないので
ペットボトルのフタに穴を空けてます。



患者さんが実際に使っている
場所で体を洗う演習



演習全体の様子



顔拭き



きょうのゆめ

今回は、メータオ・クリニックの疾病予防・健康促進部門にボランティアに来ている、タイ人の大学生 Noon(ヌーン)さんにお話を伺いました。

「ヌーン」はニックネームで、本名は Patarapon Sr ita(パッタラポン シーハー)さん、1995



年生まれ、21歳の女の子です。タイ人は普段みんなニックネームで呼び合っています。メータオ・クリニックのあるメソトの町に生まれ育ち、高校までは地元の学校に通っていました。両親は今もメソトの屋台でコーヒーなどの飲料や、下着などの衣類の販売をしています。タイの教育システムは日本と似ていて、幼稚園3年、6歳から小学校6年、中学3年、高校3年と続きます。音楽交流事業の協力校、サパウィッタヤコム高校に通っていたこともあります。高校生の時は英語、コンピューター、健康教育の授業が好きで、とくに伝統的なハーブの勉強は楽しかったです。今はチェンライという、メソトから車で10時間ほど離れた町にあるマフアルアン大学で公衆衛生学を勉強する3年生です。メータオ・クリニックのことは、タイの健康に関する教科書には必ず紹介されていてとても有名なのだとか。実際のところ、一般のタイ人はメソトに住んでいる人でも知らない人がいるような感覚なのですが、医療関係者の中では認知度は高いようです。大学の先生の勧めもあり、今回は夏休みを利用して6週間メータオ・クリニックでのボランティアをしています。ミャンマー人の現地スタッフと一緒に健康教育に使うボード作り、その際にタイ語で情報を集めるお手伝いもしました。メソト周辺のミャンマー移民のコミュニティの健康に関わることで、タイの行政からメータオ・クリニックが委託されて実施するようなこともあり、ヌーンさんは書類や会議でタイ語と英語の翻訳・通訳を頼まれることも多いです。クリニックにはタイ人スタッフがいないため、タイ語を話せる人がほとんどいません。また、タイ人は英語やミャンマー語を話せる人が少ないので、メータオ・クリニックのスタッフが仕事面でタイ人とコミュニケーションをとるのは容易なことではありません。JAMの音楽交流事業でタイの学校の先生とやり取りするにも、学校の先生でさえ英語でコミュニケーションをとれる人は少ないために、ヌーンさんに手伝ってもらっています。

そんなヌーンさんの夢は、大学卒業後、僻地で医療へのアクセスが困難な人の健康サービスを支える活動をしている団体に就職して、公衆衛生面で困っている人を助けたいとのこと。タイでは公衆衛生の大学を出ると、大きく二つの道があって一つは疾病予防や健康教育、もう一つは地域の小さな健康センターで採血や一部の薬の処方、予防接種など簡単な医療サービスを提供することができるそうです。両方とも経験したら、いつかまたメータオ・クリニックの役に立ちたい。こどものワクチンの記録の書類など、タイで使用している正式な書類がないから、こういったタイにあるけどメータオ・クリニックにないものを寄付したい。クリニックではタイ語ができる人が貴重だと聞いているので、タイ人として自分ができることは喜んでほしいです。Burma Children Medical Fund(BCMF)という団体が行っている障がいのある人に対するサービスや、JAMが移民のこどもたちのメンタルサポートやタイのこどもたちとの友好のために行っている音楽交流事業についてもとても興味があります。

※参考：BCMFについて <http://burmachildren.com/>

タイ国内では、メータオ・クリニックについて、たくさんのミャンマー移民のコミュニティの拠り所となっていることや無資格のスタッフが医療行為を行うことに対して批判的な意見を聞いたこともあります。とは言え、ミャンマー国内でさえ十分な質の良い有資格の医療職者は少なく、地方に住む多くの方は満足な医療を受けることができません。

国内の治安や仕事、教育、住環境もまだまだ整っていないとは言えず、まだしばらくはタイ国境で生活せざるを得ないミャンマー移民が多くいます。この状況でクリニックがこの地にある意義は大きく、タイ行政や地域住民の理解と協力が欠かせません。ヌーンさんのようにタイとミャンマーの架け橋となる存在があることはとてもうれしく思います。

7月末でボランティアが終わっても、書類の翻訳のお手伝いはできるから遠慮なく教えてね、と言ってくれた心優しいヌーンさん。また数年後に一回り大きくなったヌーンさんとメータオ・クリニックで会える日が来ることを楽しみにしています。





ペットボトルの飲料に含まれている砂糖の量をヌーンさんが調べて、現地スタッフが糖尿病の健康教育ボード作成中。



クリニックのスタッフと一緒にタイ行政との会議に参加するヌーンさん。通訳として頼りにされています。



JAMの音楽交流事業のための学校訪問。移民学校の校長先生と。



左から、ヌーンさん、ヌーンさんのお父さん、神谷。メソトの町中で飲み物販売の屋台の仕事をしているお父さんがフラッペをご馳走してくれました。

国内から



メータオ・クリニックとJAMの関係

いつも当会にご理解とご支援をいただき、本当にありがとうございます。

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、改めてご紹介させていただきます。

メータオ・クリニックはタイのメソトという街で1989年に設立され、27年がたちます。院長は、設立当初から、シンシア・マウンというミャンマー人の女性医師です。運営費は、世界各国からの寄付でまかない、世界各国から訪れるボランティアの医師、看護師などの医療スタッフに支えられてクリニックは診療を続けられています。

メータオ・クリニックに来る患者は、貧困等によりミャンマー国内で医療を受けられないので国境を超えてやってくる人とタイ国内で移民労働者として滞在する人が半々ずつを占めています。ですので、患者からの収入を得ることは困難です。

また、診療だけでなく、近隣の移民学校にビタミンA・駆虫剤投与、眼科検診、健康教育の実施、寄宿寮への食糧も提供しています。

当会は、「メータオ・クリニック」を支援する日本の窓口として活動しています。メータオ・クリニックに特化して支援する日本の団体は当会のみです。時々、日本のテレビや雑誌、新聞などでクリニックのことを取り上げていただく際には、当会スタッフが対応しています。

JAMが継続している支援としては、以下のこともやっています。

・院内感染予防

メータオ・クリニックでは、感染予防チームというチームがあります。JAMはそのチームに対し、スーパーバイザーとして活動しています。日本で当たり前に行われている感染予防対策の水準に近付いてもらうよう日々、指導しています。

・学校保健

JAMスタッフは、学校保健チームのメンバーとしても活動しています。具体的には、生徒や先生に向けての手洗い、歯磨き等の啓蒙活動、害虫駆除、ビタミンA投与の必要性、児童の急変時の対応といった学校保健に関わる内容をトレーニングしました。

・医療器具、古着、文房具等物資支援

JAMではスタディーツアーやJAMメンバーの現地視察時に医療器具、古着、文房具等の物資を運びメータオ・クリニックへ直接寄付しています。現在は、物資の受付はしておりませんのでご了承ください。また、物資支援のご協力を願いたいときには改めて会報やホームページでお知らせいたしますのでそのときは、どうぞよろしくお願いいたします。

・日本国内での勉強会、広報活動等

日本国内では月に一度、会運営にあたっての定例会を開くとともに、現地の最新情報をもとに勉強会を開催しています。また、その活動を広めるべく、総会、現地スタッフ報告会その他に、大学、協賛団体での報告発表を行っています。

勉強会や活動報告会を開催する際には、会報やホームページでお知らせいたしますのでぜひ、ご参加していただければ幸いです。

また、一緒に定例会に参加していただいたり、日ごろの活動を支援して下さるボランティアにつきましても常時募集しています。東京近郊在住でなくても、パソコンがあればできる活動もありますので、興味がある方がいらっしゃいましたら、お気軽にメールでご連絡ください。詳細をご説明いたします。質問もメールでお待ちしております。



小さな会ですが、メータオ・クリニック支援の会は、ミャンマー難民が安心して健やかに暮らせる日が訪れるまで、命を守る医療と健康を守る保健を彼らに寄り添いながら続けていきます。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。

編集後記



今日、スーパーで見つけました。「にら」です。今日は、別に「にら」を買うつもりはなかったのですが、まんまと名前じゃけ買いです。なんとなくですが、他のにらより、にらの香りは強い気がしました。これを食べて達者でな～。

次号の予定

次号は、8月中～下旬ごろ配信の予定です。スタディツアーの準備等の都合で大変申し訳ありませんが、次号は、8、9月合併号とさせていただきます。

ホームページは、随時更新していきますので ぜひ、お時間があるときにご覧ください。

メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動を支援して下さい、心より御礼を申し上げます。JAMの活動は皆さまからの温かい寄付によって支えられ、院内感染予防活動、移民学校での啓発活動など様々なプロジェクト・設備投資を実施しています。

支援の輪が広がっていけるよう、どうぞ当会のFacebookもフォローして「いいね」や「リツイート」で応援してください。

当会では、都度の支援金の受け入れとともに、「1日10円からの支援」を基本とし、継続的なご支援をお願いする賛助会員制度を用意しております。

【一般会員】3,650円/年 【学生会員】1,825円/年 【法人会員】36,500円/年

当会ホームページにアクセスしていただき、お申し込みフォームから会員登録のうえ、指定の口座へのお振込をしていただきますと、賛助会員として登録させていただきます。詳しくは当会ホームページをご覧ください。





NPO法人メータオ・クリニック支援の会 **Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)**

日本事務局宛て E メール : support@japanmaetao.org

ホームページアドレス : www.japanmaetao.org

フェイスブック : Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM) で検索して下さい。

※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。



